

工場の人のお話

きりぎいはぜんぶ、品質しつが良くて、きれいにできる「会津ぎり」を使っています。

げんりょうのきりの木は半分は三島町でできます。のこりは柳津町・金山町・西会津町などの良いきりを使っています。

きりの木は30年以上たいせつに育てられたもので、ちよっけいが40センチメートルぐらいのきりで、たんすが2本作れます。

はたらいているのは21人で若い人がたくさんいます。

できたきりたんすは東京をはじめ各地にはいたつています。ここでできるきりたんすは、物産かんで見ることができます。

この工場は、三島町・柳津町・金山町・昭和村がいつしよになった両沼西部森林組合でけいえいしています。

このほかにも山にいっぱいある木をつかって、いろいろなものが作られています。

町ですすめている生活工がい運動は、町にあるぎいりょうとぎじゅつをつかって品物を作り、まちおこしをすることです。

そのために生活工がい館があります。

